

社会福祉法人 蓮花の会 令和4年度 事業報告

基本理念

生まれ育ったこの町でこの町のみなさんと一緒に暮らしていきたい（生きたい）と願う当事者家族の思いに寄り添い、誰もが安心して暮らしやすいまちづくりを目指し地域福祉の向上に貢献します。

運営理念

ひとりひとりの個性と可能性を尊重し、住み慣れた地域の中で安心・安全で快適な暮らしができるよう、心かよいあう安定した福祉サービスの提供のために、法令を遵守して健全な法人運営に努めます。

<重点目標>

1 法人理念の浸透

毎朝のミーティング前に基本理念・運営理念及び7項目のスタッフの誓いの唱和を継続し法人理念の浸透に努めました。また、法人理念及び7項目のスタッフの誓いを基に作成した各サービス事業所理念を掲げていますが、利用者および支援環境に応じ、事業理念の変更が必要かを検討しました。

2 福祉人材の育成

目標とすべき職員像を職員間で検討した人事評価表を活用し、令和4年度賞与の人事考課を行いました。内容が理解しやすい反面、点数の尺度化に課題も残ったため、職位に応じたものなど改善を行っていきます。

また、重度化、多様化する障害特性への支援力向上を目的に、強度行動障害支援者養成研修などへの派遣や、将来的なサービス管理責任者、児童発達支援管理責任者の育成を目指し基礎研修会への受講を進めました。

3 法令遵守

各福祉サービス事業所の人員配置基準や個別支援計画作成の手順の確認を随時行いました。介護給付費等の請求事務については、新たに強度行動障害支援体制加算など事業所の機能強化を図ったこともあり、算定要件のチェックや、入力ミスがないよう誤請求の防止に努めました。また、各事業所の重要事項説明書、運営規定の見直しを行いました。

4 啓発・広報

年間2回「蓮の実ニュース」を継続して発行しました。また、白石町役場の電光掲示板への広告や、ホームページにて新型コロナウイルス感染症の状況報告などを行いました。

地域で開催されたマルシェにワークセンターがたっことして参加し、ドライフルーツの販売を通して法人の広報に繋げました。

5 組織機能の強化

改正社会福祉法に基づいた理事会・評議員会・監事監査会等を適正に開催し、組織統治体制を整備しました。また、税理士、社会保険労務士等の専門家によるチェック及び相談の体制の充実に努めました。

6 法人運営

- | | |
|------------------|--------------------|
| 1. 理事・監事会の開催 計6回 | 2. 評議員会の開催 計5回 |
| 3. 監事監査会の開催 計1回 | 4. 評議員選任・解任委員会 計1回 |
| 5. 衛生委員会 1回/月 | 6. 虐待防止委員会 計2回 |
| 7. マネージャー会議の開催 | 8. サービス管理（提供）責任者会議 |

(2) 財政基盤

- | | |
|------------------|-----------------------|
| ① 地域活動支援センター事業収入 | ② 居宅介護事業収入 |
| ③ 重度訪問介護事業収入 | ④ 日中一時支援事業収入 |
| ⑤ 特定相談支援事業収入 | ⑥ 障害児相談支援事業収入 |
| ⑦ 生活介護事業収入 | ⑧ 共同生活援助事業収入 |
| ⑨ 短期入所事業収入 | ⑩ 放課後等デイサービスはなといろ事業収入 |
| ⑪ 就労継続支援 B 型事業収入 | ⑫ 放課後等デイサービスゆめきら事業収入 |
| ⑬ 児童発達支援事業収入 | ⑭ 移動支援事業収入 |
| ⑮ 寄付金等収入 | |

(3) 市・町受託金・補助金等

・地域活動支援センター事業	白石町	4,750,000 円
・日中一時支援事業	1 市 2 町	6,077,166 円
・移動支援事業	2 町	1,543,800 円

(4) その他の補助金・助成金等を積極的に申請して法人運営に活用しました。

・白石町手をつなぐ育成会	27,000 円
・キャリアアップ助成金（労働局）	285,000 円
・生きがい活動支援補助金（町社会福祉協議会）	50,000 円
・NHK 歳末たすけあい募金配分金（共同募金会）	25,200 円
・IT 導入補助金 2022（経済産業省）	600,000 円
・施設内療養支援事業費補助金（佐賀県）	820,000 円

・佐賀県就労継続支援事業所応援金（佐賀県）	200,000 円
・物価高騰応援金（佐賀県）	970,000 円
・佐賀県プラットホーム補助金	370,000 円
・物価高騰応援金（白石町）	388,000 円
・障害者就労福祉サービス利用促進事業補助金	500,000 円

7 利用環境の向上

- (1) 新型コロナウイルス感染症予防対策として利用者の健康管理と施設の衛生管理に努めました。利用者、その家族に対して福祉サービス利用に係る通知を適宜発行し感染拡大予防策を講じました。また、グループホームの利用者に感染者が出た場合でも、プライベートな空間を保つことができるようパーティションを整備しました。職員に対しても、抗原検査キットの活用や、会食などへの参加自粛を求めるなど県内の感染状況に応じた対策を講じながら新型コロナウイルスの媒介者にならないよう留意しながら支援を行いました。
- (2) 就労継続支援 B 型事業所の工賃向上を目指して平均工賃月額 20,000 円以上を継続しました。また、工賃向上を目的に、県が主催する「授産事業パワーアップ支援事業デザイン等魅力向上事業」を活用しドライフルーツの加工販売を行いました。
- (3) 本体施設 2 階交流室を三幸福祉カレッジが主催する実務者研修会場として提供しました。当法人からも 6 名の職員が受講しました。うち 4 名が介護福祉士国家試験に合格することができ、人材の資質の向上につながりました。
- (4) 本体施設北側の田を購入し、駐車場整備のため農地転用申請、土地の売買契約を行いました。令和 5 年 3 月には施工業者の入札会を開き工事着工の準備を行いました。
- (5) 利用児童への支援の充実を図るため、放課後等デイサービスはなといろの定員を 20 名から 10 名に変更し、新たに放課後等デイサービスゆめきらを白石町福田に新設しました。両事業所の利用対象の地区を分けることでスムーズな送迎ができるようになり、利用児童に関わる時間も増えました。

令和4年度 地域活動支援センター事業報告

地域活動支援センター事業 ～理念～

住み慣れた地域の中で安心して過ごすことができるよう笑顔で接し、利用者の気持ちに添った支援に努めます。

1 事業運営基本計画

利用者が生まれ育った地域で、楽しく豊かに暮らすことが出来るよう、日中活動において、それぞれの障害特性に応じた排泄・食事・送迎等の必要な支援を実施しました。あわせて生産活動の機会の提供を通して就労への意欲を喚起し、社会との交流を促進するとともに、ひとりひとりの個性を尊重した事業経営に努めました。

2 利用者の処遇

利用者個々の障害特性に応じた軽作業を検討し、働く事の意義と楽しさを知って貰う事で、心身の活性化と日常生活動作の向上に結びました。また、季節ごとの行事を取り入れ、他者と交流できるよう支援いたしました。

3 利用者の実績

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人数	39	35	51	22	11	31	31	39	13	7	38	36

※ 年間延べ利用者数 353人（前年度 377人）、1日平均利用者数 1.5人

4 健康管理

毎利用のはじめに体温と血圧の測定を行い、コロナ感染予防対策として手指消毒、マスク着用、アルコール消毒、室内の換気など徹底しました。

5 防災計画

年2回、令和4年9月20日、令和5年2月23日、施設内他事業と合同で火災を想定した避難誘導訓練及び災害を想定した避難訓練を実施しました。避難誘導訓練や避難経路の確認を行いました。

6 日課

サービス提供時間（土・日・祭日を除く 9:30から15:30）において、利用者の体調等を考慮して作業内容を検討し、缶回収、JA作業（お茶の箱作り）、弁当配達など無理がない程度の日中活動を提供し、希望される方は入浴も提供しました。

7 職員研修

令和4年9月8日 根拠のある記録の書き方記録の書き方

令和4年11月14日 サービス管理責任者実践研修

内部、外部の研修等に積極的に参加して、職員会議等で伝達・報告し、事業所全体の資質の向上とサービス向上に努めました。

令和4年度 居宅介護事業・重度訪問介護事業報告

1. 基本業務の内容

利用者が自宅において、安心、安全に過ごすことができるように時間を厳守して訪問しました。朝の支度や排泄、入浴等の身体介護及び調理等の家事援助を実施しました。

また、一人で病院等を受診できない利用者については、福祉有償運送車両を用いて通院の介助を行い、安全運転で目的地まで送るよう努めました。家族と顔を合わせる機会が少ない利用者には、家族と事業所間の連絡帳を作成して利用者の様子を報告するなど家族との連携に努めました。

2. 利用者の処遇

利用者が出来ることは、自発的に行っていただけるように、自信が持てるような言葉かけに留意した支援を行い、これまで過ごして来られた生活習慣を大切にし、課題が見えた場合には、会議等で検討、より良い支援につなげることで利用者に安心と信頼を得られるよう努めました。新型コロナウイルス予防対策では、支援者から利用者への配慮で車両には飛沫防止カーテンを取り付け、また、新型コロナウイルス感染症のリスクの高い利用者の支援も考えられた為フェイスシールド、防護服を準備し一人暮らしのコロナ感染者への支援も行いました。特に重度訪問介護を行う際には、利用者の重症化リスクが高いため、支援者の体調管理を厳格に行いました。

3. 健康管理

毎回、サービスを利用の際に、本人もしくは家族に体調や生活面の様子を伺い、変化等がある場合は、記録に残しました。毎朝の検温、手指消毒、マスク着用、アルコール消毒など徹底しました。

4. 利用実績（人数）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
身体介護	7	7	7	8	6	6	6	6	5	6	8	7	79
重度訪問介護	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	0	1	10
家事支援	6	6	6	6	6	6	5	6	7	6	6	6	72
外出支援	15	13	14	12	14	14	16	12	13	11	14	11	159
通院	14	14	17	12	13	16	11	14	13	15	15	15	169
延利用人数	43	41	45	39	40	43	39	40	38	39	43	39	489

※延べ利用者人数は前年度比-（-92人）

5. 移動支援

福祉有償運送により、通院及び外出等の支援を行ないました。令和4年度は、延べ595回の利用があり、10,606km走行しました。

6. サービス提供時間

午前7時30分からの利用が多く、利用者がいつでも連絡できるよう専用の携帯電話を窓口として24時間体制で行いました。

7. 資金報告

通常の運営費は、介護給付費、利用者負担金収入で賄いました。

令和4年度 生活介護事業報告

1 事業運営の基本方針

利用者が自立した日常生活または社会生活を営む事ができるよう、入浴、排泄および食事の介護、創作的活動又は生産活動の機会を提供し、地域における生活の充実と社会的自立を支援するとともに、1人ひとりの個性を尊重した事業運営に努めました。入浴においては、個々の要望に沿えるよう支援し、安全かつ自立に繋がる支援を行いました。

2 利用者の処遇

利用者の基本的人権を尊重し常に利用者の立場に立った支援を行いました。また心身の健康管理と維持、軽運動を取り入れ身体機能の向上にも努めました。

3 健康管理

毎利用時にバイタルチェック（検温・血圧測定・体調確認等）を施行し、体調不良及び身体に変化がある場合は看護師と協力しながら対応しました。また、嘱託医による月1回の往診、健康相談を実施しました。感染予防対策として日常の手洗いと室内の換気の励行、温度・湿度の調整をこまめに行いました。体温調節が難しい利用者には衣服等の調整を行い健康管理に努めました。新型コロナウイルス感染症対策として体温チェック表を各家庭に渡して、事業所でも朝・昼、15時に測定し観察を行いました。特に手洗い・うがい・手指消毒・換気の励行、消毒液で窓・ドアノブ・床・机・椅子等清掃を行いました。また、昼食時は対面食事を止め間隔を置いて食べてもらいました。

4 防災計画

火災を想定した避難訓練を令和4年9月20日（火）と令和5年2月23日（木）に行いました。

5 日課

月曜日から土曜日までサービスを提供し、バイタル測定を行い、水分補給や休憩をはさみながら軽作業と入浴を中心に日中を過ごして頂きました。個別支援計画に基づき一人ひとりの個性や特性に配慮して、課題に沿ったサービスの提供を行い、午後3時からは「帰りの会」で全員参加のゲームや踊りを実施しました。

3月には新型コロナウイルス感染者数が減少傾向になった為、カラオケ大会やドライブを実施しました。久しぶりの行事に皆さんの楽しい表情が見られ、家族様からは再開できて良かったとの声をいただきました。

6 職員研修

- 令和4年5月27日 発達障害への理解と対応研修（基礎編）
- ・6月28・29日 強度行動障害支援者養成研修（基礎）

- ・7月27日・28日 強度行動障害者養成研修 (実践)
- ・7月19・27日 発達障害への理解と対応研修 (応用編・事例検討)
- ・10月8日 第27回日本自閉症協会全国大会 佐賀大会
- ・11月17日 サービス管理責任者 実践研修
- ・障害福祉サービス事業等従事者向け障害者虐待に関する研修会

7 資金計画

令和4年度計算関係書類の通り、運営費は介護給付費で賄いました。

8 利用実績

	月/区分	2	3	4	5	6	計	市町村別利用者数 (令和5年3月31日現在)		年齢別利用者数 (令和5年3月31日現在)	
令和4年	4月	0	17	89	102	169	377	市町村	人数	年齢	人数
	5月	0	17	90	109	184	400	白石町	16	19~25	7
	6月	0	17	89	108	180	394	江北町	1	25~30	5
	7月	0	14	77	106	169	366	大町市	3	30~40	3
	8月	0	18	71	116	164	369	嬉野市	2	40~50	3
	9月	0	14	53	97	201	365	武雄市	1	50~60	4
	10月	0	12	53	107	207	379	鹿島市	1	60~65	1
	11月	0	14	55	98	199	366	計	24	65~70	1
	12月	0	14	97	52	197	360			計	24
	令和5年	1月	0	16	50	82	203	351			
2月		0	19	59	88	183	349				
3月		0	13	66	96	216	391				
利用者延数(A)		0	185	849	1161	2272	4467				
令和3年度(B)		22	242	901	1186	1960	4311				
増減(A-B)		-22	-57	-52	-25	+312	+156				

※令和4年4月3日~4月8日、7月25日~8月2日は新型コロナウイルス感染拡大のため閉所し在宅支援を提供しました。

※利用者の76.9%は障害支援区分5または6を有し、日常的にマンツーマンをしています。(昨年度は73%)

令和4年度 指定特定相談支援事業（障害者・障害児）報告

●事業の目的である“常に利用者（児）の立場に立って、利用者（児）や家族が望む自立した日常生活又は社会生活ができるように、障害福祉サービス事業所等との連携を図り、利用者が暮らしやすい計画相談（サービス等利用計画・障害児利用支援計画）の提供の確保”に努めました。

●特定相談支援事業所運の実の理念である“寄り添い、ともに歩く”を具現化できるように利用者（児）が関わっている様々な機関で、様子を見せてもらいお話を伺いました。又、利用者（児）や家族等の願いや暮らしを実現できるような計画を立てて、支援を提供してくれる事業所等を探して繋げました。小学校に入学される方は入学式前に関係者に集まってもらい移行支援会議を行いました。必要に応じて利用者や児童の支援会議を開催しました。Dr や訪看等の医療関係の方との支援会議も行いました。

●サービス等利用計画（18歳以上）作成件数及びモニタリング件数その他

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
計画作成	3	2	13	4	4	6	4	5	3	5	6	5	60
モニタリング	15	15	10	10	13	13	10	9	17	10	13	14	149
その他	8	7	8	12	3	10	3	9	6	2	11	10	89
合計	26	24	31	26	20	29	17	23	26	17	30	29	298

※令和4年度 障害者計画相談登録者数 男性 34名 女性 22名 合計 56名

●障害児支援利用計画（18歳未満）作成件数及びモニタリング件数その他

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
計画作成	10	16	12	11	10	13	11	20	10	11	8	15	147
モニタリング	29	26	32	24	21	17	14	22	18	13	17	24	257
その他	4	4	6	5	3	4	9	13	10	9	7	7	81
合計	43	46	50	40	34	34	34	55	38	33	32	46	485

※令和4年度 障害児計画相談登録者数 男児 85名 女児 26名 合計 111名

その他とは：更新やモニタリング月以外の必要に応じた訪問や、会議の開催又は参加等です。

●職員研修その他：土日含む

研修内容	開催日
発達障害支援サポーター養成研修	6/7・6/20・7/13・8/31・10/31・2/8
相談支援部会	5/17・10/18・11/17・1/17・2/14
相談支援全国大会	12/2, 3
障害等研修	10/9, 10・12/24・1/27・2/7
自立支援協議会	5/20・6/10・6/16・9/16・10/14・10/20・12/9・1/19・2/10
医療ケア児等研修等	9/20・10/15・3/1
主任相談支援専門員研修	9/10・9/15・9/17・9/28, 29, 30
相談支援専門員現任研修	10/19, 25, 26・11/15・12/13
職員全体会議	4/27・5/25・6/29・9/28・10/26・11/24・2/22

令和4年度 共同生活援助事業報告

1. 業務報告

利用者が安心して穏やかに暮らすことができるよう、家庭的な雰囲気作りに努めました。利用者の言葉に耳を傾け、コミュニケーションを図り、利用者の自己選択、自己決定を大切にされた支援を心掛けました。ホームの理念に添い、温かいホームで、楽しい共同生活を送る事が出来るよう努めました。個別支援として、買い物の支援や外出、外食等、入居者の希望を聞きながら実施したいと考えていましたが、コロナ感染により今年度も実施できないことも多くありました。

*コロナ感染について

感染防止のため施設内の除菌や手指消毒等に努めましたが、7月 1名、8月 1名、12月 4名と、全員が感染されました。その都度本体施設 2階へ隔離し、職員も分かれて業務を行いました。

2. 利用者の処遇

利用者の心身の状況や、ひとり一人の個性を尊重し、また家族の意向を確認して、個別支援計画を作成しました。その計画に基づき、チームで統一した支援を実践するように毎月の支援会議で申し合わせを行いました。利用者が介護を受けるだけにならず、本人が出来ることを見つけ、毎日の掃除機かけ、洗濯物干しや洗濯物たたみ、コップ洗い等職員とともに実施することで、利用者との関係性も向上してきたと考えます。

3. 健康管理

毎朝、バイタル測定を実施し、異常の早期発見に努めました。週ごとに朝、夕の献立を作成し、バランスの取れた消化の良い食事の提供に努めました。誤嚥防止や咀嚼力により個々に合わせた食事形態に配慮しました。また増加しがちな体重管理の為、野菜中心のメニューを作成し提供しました。年間を通じてコロナウイルス感染防止の為、手洗い、消毒、施設内の除菌作業を毎日行いました。

4. 環境の整備

日頃から清掃、換気に努め清潔な環境で気持ち良く生活出来るよう配慮しました。衣類は毎日、リネンは毎週洗濯し快適な暮らしに向け努めました。

5. 防災計画

防災計画を作成すると共に、2月と9月に夜20時に災害時避難訓練を実施しました。利用者へは事前に知らせることなく実施しましたが、回数を重ねるごとに短時間でスムーズな避難ができています。避難に関わる必要物品や備蓄も準備しています。

6. 人材育成と専門性の向上

職員全体会議やスタッフ会議への参加を促し、個人のスキルアップと職員間で統一したケアが出来るように報告、連絡、相談に努めました。強度行動障害支援加算を11月より算定しており、研修へ参加しました。

*職員研修参加状況

〈法人外〉 10/ 8～9	日本自閉症協会 全国大会	山中寿雅子
10/27・ 11/8～10・ 12/14～15	サービス管理責任者研修	筒井美紀
2/16～17	強度行動障害支援者養成研修	吉永恵子

〈法人内研修〉

6/29	オンライン研修（自閉症スペクトラム症 事例）
7/11 8/24	ヒヤリハット報告についての検討会
11/24	事故対応マニュアル 放課後等デイサービスとグループホームの開設

7 入退居報告 入退居者 0 6床満床

令和4年度 短期入所事業報告

1. 業務報告

利用者が安心して宿泊することができるよう、家庭的な雰囲気作りに努め、保護者や関係機関との連携を密にして自立に向けた支援に努めました。7月、8月、12月は入居者のコロナ感染となりその間は短期入所事業を閉鎖しました。

2. 利用者の処遇

利用者一人ひとりの心身の状況に応じ、職員が手を出し過ぎず日常生活上の必要な支援を考慮して利用のADLの向上に努めました。利用者ごとに支援目標を定め、個々のニーズに添った支援が出来るよう職員はケアの統一に努めました。

3. 健康管理

利用者の嗜好調査を行いつつ、バランスと消化の良い食事の提供に努め、来所時と起床時の健康チェックを行い体調の変化に留意しました。4年度もコロナウィルスの感染防止のため、手洗い、消毒に努め、施設内の除菌作業を毎日実施しました。

4. 環境の整備

施設内の美化と利用者の身の回りの整理整頓に努め、衣類等は入浴後に洗濯し、終了時は清潔な衣類を返却しています。快適な環境で過ごせるよう換気、通気に気を配り空調の管理を行いました。

5. 災害避難訓練の実施

防災計画にそって年2回、夜間避難誘導訓練を実施しました。(2月・9月)

6. 人材育成と専門性の向上

スタッフ会議や職員全体会議に参加して、個人のスキルアップと共に伝達研修や報告会を通して事業所全体の資質の向上とサービスの質の向上に努めました。

7. 実績報告 別紙

令和4年度 短期入所利用実績

月	利用者数(人)	利用日数(日)	利用延べ日数(日)
4	17	42	90
5	17	52	111
6	16	52	108
7	14	35	73
8	15	32	63
9	16	45	95
10	17	50	106
11	15	50	106
12	14	30	64
1	14	43	95
2	13	43	93
3	15	49	109
合計	183	523	1113
平均	15	44	93
昨年度 実績	19	52	105

令和4年度 放課後等デイサービスはなという事業報告

1. 事業運営の基本計画

障害をもつ児童に対し、放課後及び土曜、祝日や長期休業時などに、生活能力の向上に必要な訓練、社会交流、コミュニケーション能力向上への支援を行いました。また、特性に応じた環境調整により安心して過ごせる空間作りを行ったり、児童が成功体験を積むことが出来るような活動を計画したりしました。

支援の質が低下しないように、個別支援計画作成手順を遵守し、職員全体で支援の目標や方法を共有できるように努めました。

2. 利用者の処遇

保育士、児童指導員を配置し支援にあたりました。令和5年3月より定員10名となり、それぞれの特性に応じた環境調整を行い手厚く支援ができる環境を提供し、日常生活動作訓練や、学習課題、コミュニケーション能力の向上、社会性の向上（ルール理解）等を行いながら、休日などの一日利用時には行事を計画し余暇時間の充実を図りました。

3. 研修計画

施設内全体研修では、講師を招いて研修を行いました。施設外研修としては行政が主催する研修会、各団体などが開催している研修会に積極的に参加しました。研修に参加した職員が学んだことを、事業所内ミーティング等で他職員にも報告することで、特性理解や支援技術の向上へと繋げました。

4. 健康管理

保護者様や学校担任への体調等の聴取は随時実施しました。利用開始時には体温測定などのバイタルチェックを行いました。

衛生管理面にも配慮し、来所時の手洗い・消毒、食事やおやつ前の手洗いを実施しました。新型コロナウイルス感染予防対策としては、各家庭に感染症予防対策への協力依頼のお便りを配布、日頃より各家庭にて朝昼夜の検温を徹底していただき、利用時に検温表のチェックを行いました。また、玩具や机などの備品の消毒、室内換気、利用児童へのマスク着用の促しを行いました。

5. 防災計画

令和4年9月20日午前11時00分に本体施設生活介護（浴室）より火災が発生、令和5年2月23日午前11時00分に本体施設厨房より火災が発生したという想定にて、2回避難誘導訓練を実施しました。

6. 日課

学校からの送迎後、手洗い・消毒、バイタルチェックを行い、個別支援計画に沿った課題や訓練を実施しました。特性に応じて個室で宿題等をしたり、知育ゲーム・玩具を友達と一緒に楽しまれた

り、外に出て集団遊びをしたり、各々が好きなことをして過ごせるようになりました。

7. 実績

① -1 利用契約児童数（令和4年4月～令和5年2月）定員 20名

小学部	中学部	高等部
40名	2名	9名

① -2 利用契約児童数（令和5年3月より）定員 10名

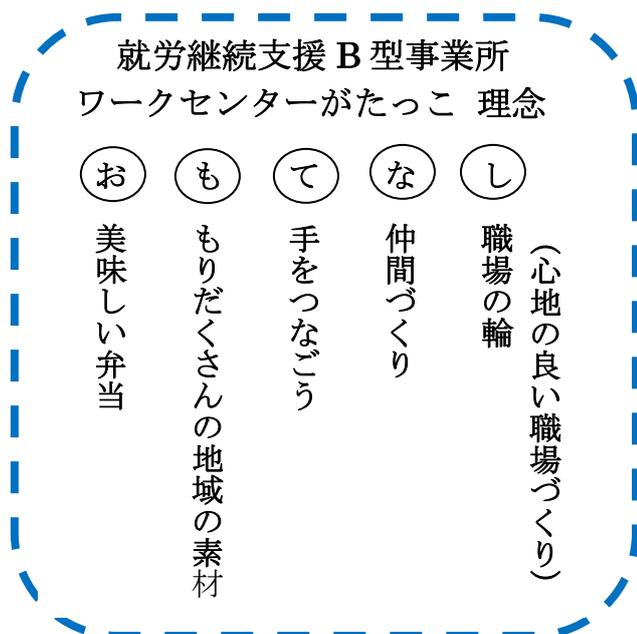
小学部	中学部	高等部
20名	2名	7名

② 利用実績児童数（令和4年4月～令和5年3月）

令和元年8月より定員 20名 令和5年3月より定員 10名

年 月	延べ利用者数	1日平均利用数
令和4年4月	365名	14.0名
令和4年5月	397名	15.2名
令和4年6月	413名	15.8名
令和4年7月	429名	16.5名
令和4年8月	421名	16.8名
令和4年9月	390名	16.2名
令和4年10月	429名	16.4名
令和4年11月	390名	15.0名
令和4年12月	404名	16.1名
令和5年1月	378名	15.7名
令和5年2月	379名	16.4名
令和5年3月	274名	10.1名

令和4年度 就労継続支援B型 事業報告



1. 事業運営の基本計画

一般就労が困難である利用者に対して就労の機会を提供し生産活動やその他の活動を通じて、ひとりひとりの個性を尊重し地域における生活の充実と社会的自立の支援に努めました。

2. 利用者の処遇

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	全体
開所日		26	26	26	20	23	26	26	26	25	24	24	27	306
利用者	延べ人数	219	222	245	172	195	212	229	217	181	158	193	236	2,479
	1日平均	8	9	9	9	8	8	9	8	7	7	8	9	8
工賃		204,677	215,345	231,285	160,439	361,809	207,726	224,744	212,823	332,201	155,708	189,371	416,804	2,912,932
月額工賃支給者数		13	13	13	14	13	13	12	13	13	13	13	14	157

※8月・12月・3月は賞与を含む

利用者の立場に立ち心身の健康保持と生産活動の能力向上に努めました。県に報告する様式(月に5日以上の利用者)での平均工賃は、令和4年度目標の2万円以上を達成しました。

お楽しみ会の外出や食事会は、コロナ感染拡大や感染拡大予防のために計画ができませんでしたが、新型コロナが感染拡大し始めてから自粛していた施設全体行事の新年会やクリスマス会を、就労B型事業所だけで行い、利用者同士の交流を深めました。

3. 生産活動

①手作り弁当事業(白石産の原材料にこだわった手作りの美味しい弁当)

弁当・配食事業は、お客様のニーズに出来る限り対応し、安心・安全な弁当を提供しました。お弁当の総数は29,276個、一日平均96個でした。前年比4,234個の増でした。

厨房では野菜の皮むきや刻み、盛り付け、洗浄などの作業を行いました。また地域への弁当配達にも行き、地域の方との交流も行いました。

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
弁当	個数/月	2,197	2,253	2,312	2,463	2,216	2,342	2,652	2,670	2,391	2,275	2,534	2,971	29,276	2,440
	1日平均	85	87	89	123	96	90	102	103	96	95	106	110	1,180	96
配食	個数/月	983	988	1,033	959	915	908	953	917	906	829	804	806	11,001	917
	1日平均	33	33	33	32	33	32	32	33	33	29	33	34	390	32.5

②受託事業（配食サービス・JA葬祭用ギフト包装作業）

配食の総数は11,001個で一日平均32.5個でした。前年比1,243個の減でした。

JA葬祭用ギフト包装作業は、箱折り等作業に慣れてこれ作業ペースが上がり、前年比15,500個の増でした。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
納品数	800	2,000	2,400	1,900	1,500	3,000	2,500	2,000	1,900	2,000	2,500	2,900	25,400	2,100

③自主製品事業（加工食品・ドライフルーツ製造・手作り小物作成・販売）

施設敷地内で胡椒を栽培・収穫し、柚子胡椒に加工して直売所、物販活動、白石町商工会ほっと横丁にて販売しました。

令和3年度をもって、きくらげ・しいたけ栽培終了したため、今年度より乾燥機を活用したドライフルーツ製品づくりを開始しました。試作を重ね、令和4年11月に県主催のマルシェにて販売デビューをし、冬季物販活動でもドライフルーツセットの販売を行いました。原材料のトレー並べや計量、袋詰め、ラベルシール貼り等の作業を行いました。

④その他作業（空き缶・空きビン回収・選別等）

地域を定期的に回って空き缶・空き瓶・古紙回収作業を行いました。



4. 防災訓練

火災を想定した避難訓練を令和4年9月20日（火）、令和5年2月23日（木）に行いました。

9月の訓練の際には、職員対象に車椅子対応車両の講習も行いました。

令和4年度 児童発達支援事業ほっぷ・すてっぷ事業報告

ほっぷ・すてっぷの理念

子どもたちが持つ可能性や強みに着目し、
成功体験を積み重ねることでこころとことばを育てていきます

1. 事業運営の基本方針

児童が日常的な基本動作を習得し、集団生活に適応することができるよう、児童の心身及び精神の状況並びにその置かれている環境に応じて、適切かつ効果的な指導及び訓練を行いました。

2. 利用児童の処遇

保育士、社会福祉士の専門職を含めた職員を配置し支援にあたりました。日常生活動作訓練や個別訓練、コミュニケーション能力の向上、社会性の向上等を身につけることへの支援を行いました。

3. 健康管理

保護者に児童の体調等を提供記録に記入して頂き、また保育園に迎えに行った際、担任へ登園時からの体調等の聴取を実施しました。利用開始時には体温測定などのバイタルチェックを行いました。衛生管理面にも配慮し、来所後、食事の手洗い実施や、室内の換気などこまめに行いました。新型コロナウイルス感染予防対策としては、各家庭にて来所前日の夜、来所日の朝の体温チェックやマスク着用等のご協力をして頂きました。事業所でも来所時と昼に体温測定を行い、また送迎後は車内や玩具、机などの備品は消毒を行い、清潔を保つように努めました。食事の際は、個別に食事を行う等して感染予防に努めました。

4. 防災計画

令和4年7月25日(月)26日(火)27日(水)28日(木)29日(金)生活介護浴室から火災を想定した訓練を実施しました。又、令和5年2月13日(月)14日(火)、15日(水)、16日(木)、2月17日(金)は、本体事業所の厨房より火災を想定した避難訓練を実施しました。

5. 日課

保育園や自宅への送迎後、バイタルチェック、朝の準備、排泄、手洗いを行い、個別支援計画に沿った訓練を実施しました。朝の会は年齢に応じた活動を行い、椅子に座る練習をしました。また個別訓練を行う事で、苦手な課題を克服できるよう支援しました。就学に向け、年長の児童には、グループワークを行い、他の児童と一緒に課題に取り組みました。今年度は、

年長の児童 14 名の卒所式を行いました。

6. 研修参加実績

「発達障害総論」～「生きづらさ」という病～

発達障害の最新トピックス

強度行動障害支援者養成研修 基礎研修

7. 実績

①利用契約児童数 契約児童総数 31 名

未満児（3歳以下）	年少児	年中児	年長児
0名	5名	12名	14名

②利用実績児童数（令和3年4月～令和4年3月）定員 10名

年 月	開所日	延べ利用児数	1日平均利用数
令和4年4月	20日	60名	3.0名
令和4年5月	19日	68名	3.5名
令和4年6月	22日	91名	4.1名
令和4年7月	15日	46名	3.0名
令和4年8月	21日	70名	3.3名
令和4年9月	19日	85名	4.4名
令和4年10月	20日	97名	4.8名
令和4年11月	20日	114名	5.7名
令和4年12月	21日	101名	4.8名
令和5年1月	18日	100名	5.6名
令和5年2月	19日	106名	5.6名
令和5年3月	22日	124名	5.6名



令和4年度 放課後等デイサービスゆめきら事業報告

1. 事業運営の基本計画

障害をもつ児童に対し、放課後及び土曜、祝日や長期休業時などに、生活能力の向上に必要な訓練、社会交流、コミュニケーション能力向上を目的に支援を行いました。また、特性に応じた環境調整により安心して過ごせる空間作りを行い、児童が成功体験を積むことが出来るような活動を計画しました。支援の質が低下しないよう、個別支援計画作成手順を遵守し、職員全体で支援の目標や方法を共有できるように努めました。

2. 利用者の処遇

保育士、児童指導員、小・中学校教諭免許等を持つ専門性が高い職員を配置し支援にあたりました。日常生活動作訓練や、学習課題、コミュニケーション能力の向上、社会性の向上（ルール理解）等を行いながら、休日などの一日利用時には各日で行事を計画し、屋外活動を取り入れながら余暇時間の充実を図りました。

3. 研修計画

施設外研修としては行政や各団体が主催する研修会や子ども支援部会へ積極的に参加しました。研修に参加した職員が学んだことを、事業所内ミーティング等で他職員にも報告することで、特性理解や支援技術の向上へと繋げました。

4. 健康管理

保護者や学校担任への体調等の聴取は随時実施しました。乗車時と利用開始時には体温測定などのバイタルチェックを行いました。

衛生管理面にも配慮し、来所時の手洗い・消毒、食事やおやつ前の手洗いを実施しました。新型コロナウイルス感染予防対策としては、各家庭に感染症予防対策への協力依頼のお便りを配布、日頃より各家庭にて朝昼夜の検温を徹底していただき、利用時に検温表のチェックを行いました。また、玩具や机などの備品の消毒、室内換気、利用児童へのマスク着用の促しを行いました。

5. 防災計画

避難経路や導線、避難場所の確認・職員の役割分担の確認を行いました。

6. 日課

学校からの送迎後、手洗い・消毒、バイタルチェックを行い、個別支援計画に沿った課題や訓練を実施しました。新事業所が開設して間もないため、ゆめきらでの過ごし方や約束事・地域の中で過ごしていく理解を深めるために、ソーシャルスキルワークを取り入れた訓練を実施しました。特性に応じてパーテーションで区切った個室で宿題等をしたり、知育ゲーム・玩具を友達と一緒に楽しめたり、休日は外に出て集団遊びをしたり、各々が好きなことをして過ごせるようになりました。

7. 利用実績

① 利用契約児童数

小学部	中学部	高等部
26名	0名	0名

② 利用実績児童数（令和4年3月のみ）

年 月	延べ利用者数	1日平均利用数
令和5年3月	161名	5.9名
年間延べ利用者数・平均	161名	5.9名

※令和5年3月に開所したため、3月のみ実績を記載しています。

- ・新放課後等デイサービスが開設し、3カ月が経とうとしています。子どもたちもゆめきらでの生活に慣れ、笑顔で過ごす姿がたくさん見られるようになってきました。地域交流を行うために、地域の散策や公園・図書館で余暇時間を過ごしたり、清掃活動などを取り入れたりしながら地域社会へ貢献し地域との関りを深めています。



令和4年度 日中一時支援事業報告

日中一時支援事業 理念

- ・ご家族との連携に努め、安心して預けられる『場所』を作ります。
- ・利用者の特性を把握して、日々の学びを深めながら統一した支援に努めます。

1 運営基本計画

利用者ひとりひとりの個性と家庭の教育方針を尊重し、生活習慣の確立及び機能の向上に心がけ、明るく楽しい施設運営に努めました。

2 利用者の処遇

すべての利用者を平等に処遇し、趣味の活動や娯楽を通して将来の自立に向けた生活習慣の指導・訓練とADLの向上に努めました。ショートステイ利用後、登校前支援としてうれしの特別支援学校への朝送りに対応しました。

3 利用者実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
登校前支援	2	3	3	2	0	2	3	1	0	2	4	3	25
日中支援	121	149	157	102	113	133	152	146	123	123	147	169	1635

前年度 1586 人

4 環境整備

前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症予防に心がけ、施設内清掃と利用者周辺の整理整頓に心がけました。食事やおやつ前には手洗いを促し、利用前、利用後には手すり椅子、テーブルなどのアルコール消毒を励行するなど健康保持に努めました。

5 防災計画

年2回、令和4年9月20日、令和5年2月23日施設内他事業と合同で火災を想定した利用者を含めた避難誘導訓練を行いました。計画的に実行し、今後の対策と反省点などを職員全体で共有できました。

6 日課

平日 学校の下校に合わせて送迎車で施設へ移動
趣味活動 15:30～18:00 (保護者迎えまで)
帰宅(事業所送り) 通常17:00 事業所発
帰宅(保護者迎え) 通常18:00 まで
土曜 祝祭日 学校休業日 受け入れ時間 9:00～17:00

7 職員研修

令和4年9月8日 根拠のある記録の書き方
令和4年11月14日 サービス管理責任者実践研修
内部、外部の研修に積極的に参加し、職員全体会議で伝達報告を実施することにより事業全体の資質の向上と統一した支援に努めます。